

ひそかな愉しみ



その昔、男の子に「ドライブに行きましよう」と誘われても、たいして嬉しくありませんでした。どんなに好きな男の子だったとしても、二人きりのドライブは、なんだか気詰まりだったからです。助手席にいろいろな喋ったり缶ジュースを渡したり地図を見たりしなければならぬ。居眠りしてはいけないうらいし（助手席ほど居眠りに最適な場所はないのでは、というのが昔からのわたしの持論なのに）。かといって、数人のドライブも全然いいとは思えなかった。目的地に歩かずに到着できるのは楽ちんだけれど、好きなところで立ち止まったりじっと景色を見たりできないのが、つまらない

ではありませんか。

目的地に行くのは、ぜひ電車かバスであってほしい。

いつもいつも、そう思ってきた。たぶん、ものすごく自分勝手なんだと思います。好きな時に途中下車したり、好きなだけ立ち止まったり、まわりの景色をじろじろ眺めたり。そんなことができないと、すぐに飽きてしまうのです。

見知らぬ人たちと一緒に乗る、ということも、楽しいのかもしれない。そういえば、電車の向かいの座席に座っている人たちが、家族および近隣の人たちだと仮定して、その家族関係を想像するという習慣が、わたしには

川上弘美

あるのです。ほら、そこに並んで座っているのは、おじいさんと、その孫（高校生）。おばあさんはもう亡くなっている、孫の母親にあたるおじいさんの娘は離婚して戻ってきたのだけれど、今は働きに出ているので、孫の横にいる女の人は娘ではなくお隣の親切な奥さん。おじいさんはその奥さんがちょっと好き（でも隠している）。奥さんの隣はその夫で、夫の隣にいるのは夫の兄と弟。三人そろってちょっとメタボ気味な体型なのは、母親が甘いもの好きで子供たちに遺伝したから……。

わたしの住む東京は、なんて電車がたくさん走っている都市なのでしょう



イラスト・岡林玲

みんな

CONTENTS

Vol. 50

2014

◎日本民営鉄道協会とは？

昭和42年に社団法人として設立、平成24年4月1日付で一般社団法人に移行、72社の民営鉄道会社で組織されています。
輸送力の増強と安全輸送の確保を促進し、鉄道事業の健全な発達を図り、もって国民経済の発展に寄与することを目的とした活動を行っております。
なお、JR各社や公営地下鉄などは加入していません。

- 14 **富士急行と富士山麓観光のあゆみ**
REPORT I
●山梨県知事 横内正明
- 12 **富士山を保全し、良質な国際観光地を目指す**
INTERVIEW
●富士急行株式会社 取締役社長 堀内光一郎
- 08 **「富士を世界に拓く」創業の精神のままたに**
TOP INTERVIEW
●富士急行と富士山麓観光
特集／富士山とともに

- 30 **新駅ビル「クルン高岡」に乗り入れ**
能勢電鉄
「里山便」も運行開始
連載 地方民鉄紀行
●岳南電車株式会社
連載 大正・昭和の鳥瞰図絵師 吉田初三郎の世界
●関東第一の魅力 銚子市
●首都大学東京非常勤講師 藤本一美
- 28 **「里山便」も運行開始**
連載 地方民鉄紀行
●岳南電車株式会社
連載 大正・昭和の鳥瞰図絵師 吉田初三郎の世界
●関東第一の魅力 銚子市
●首都大学東京非常勤講師 藤本一美
- 26 **新駅ビル「クルン高岡」に乗り入れ**
能勢電鉄
「里山便」も運行開始
連載 地方民鉄紀行
●岳南電車株式会社
連載 大正・昭和の鳥瞰図絵師 吉田初三郎の世界
●関東第一の魅力 銚子市
●首都大学東京非常勤講師 藤本一美

- 02 **ひそかな愉しみ**
●作家 川上弘美
基調報告 40
- 04 **富士山と信仰文化**
●拓殖大学名誉教授・理学博士
富士山文化研究会会長・富士学会理事 竹谷敦負
- 08 **「富士を世界に拓く」創業の精神のままたに**
TOP INTERVIEW
●富士急行と富士山麓観光
特集／富士山とともに

- 18 **富士とともに、この地とともに**
REPORT II
●富士急行株式会社 専務取締役 専務執行役員
交通事業部長 堀内哲夫
●富士急行株式会社 専務取締役 専務執行役員
グループ事業部長兼不動産事業部担当 福重隆一

う。一日じゅう電車に乗っていても、その日だけで東京じゅうの路線をすべて乗りつくすことは到底できません。その東京で、ものごころついた頃から今にいたるまで、電車に乗るたびにこの家族想像ごっこを続けてきたわたし——そりゃあもう、いろんな家族がいました。気持ちいいくらい仲のいい家族もいれば、火宅の家もありました。悲劇の家族もあれば、ここには書けないくらいすごい秘密が隠されている家族もあった——まあ、ほかですね。小

説を書くことには役立ったかもしれないが、わたしの脳内で勝手に家族を演じさせられた人たちがもしその想像を知ったら、さぞ腹をたてたに違いありません。
今日はこれから、また電車に乗って用足しに行く予定です。ひとつ趣向を変えて、向かいの席ではなく自分の側の席がどんな家族だか想像してみることにしましょうか。その中にはわたしも含まれているわけで、これはこれで、どきまぎする試みですね。

かわかみひろみ
作家。東京都生まれ。お茶の水女子大学理学部生物学科卒。1994年「神様」で第1回バスカル短編文学新人賞を受賞。96年「蛇を踏む」で芥川賞、2001年「センセイの靴」で谷崎潤一郎賞、07年「真鶴」で芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。著書に「神様」「古道具中野商店」「風花」「どこから行っても遠い町」「七夜物語」など。最新刊に「猫を拾いに」がある。

